

なぜ「貯蓄から資産形成(投資)へ」が進まないのか

B5R11115 登坂勇人

概要

将来、人口減少と高齢化が加速していくなか、今までのような手厚い社会保障を国民一人一人に対して政府が保証するのは、一段と困難になっていく。そのため、「貯蓄から資産形成(投資)へ」を政府がスローガンとして掲げ、タンス預金などの動いていないお金を動かし個人でお金を作ってもらう取り組みを行っている。しかし、実際のところ約15年の間で投資の割合は大きく増えていないのが現状である。近年、よく耳にするNISAやiDeCoの状況、フィデューシャリー・デューティーの考え方、問題解決までの原因は多数ある中で解決するのは非常に難しいと思う。少しでもなぜ進まないのかの要因を見つけ、まとめていく。

本項でははじめに、日本の家計資産の変化を提示し、先行研究では証券会社の取り組み、政府の取り組みなど書いていく。また、金融教育の観点で他国と比較し、金融教育の不足を仮説とし、検証、結論を出していく。